

タイトル	北海道女性の戦後70年伝える・生きる：戦後を生き た女性たちからわたしたちが今受け継ぐもの 女性プ ラザ祭2015 トークセッション報告
著者	中園，桐代；林，恒子；工藤，遥；NAKAZONO， Kiriyo；HAYASI，Tsuneko；KUDO，Haruka
引用	開発論集(98)：179-210
発行日	2016-09-30

北海道女性の戦後70年 伝える・生きる

——戦後を生きた女性たちからわたしたちが今受け継ぐもの——

女性プラザ祭 2015 トークセッション報告

中 囿 桐 代*・林 恒 子**・工 藤 遥***

I 解 題

北海道ジェンダー研究会では、2013年から北海道立女性プラザの「女性プラザ祭」のトークセッションを担当し、2015年も11月13日に札幌女性史研究会と共催で開催した。登壇者に三浦章子氏（非会員）を迎えて「北海道女性の戦後70年 伝える・生きる」をテーマに、北海道の女性運動の歴史を振り返った。参加者は25名である。

三浦氏は札幌市で1955年に保育所設立運動を行い、その後も、平和運動、消費者運動と精力的に活動してきた。88歳という年齢にもかかわらず2時間のほとんどを一人で話された。そのパワーにまず圧倒された。そして、周りの女性たちの声を聞き運動をつくり上げた三浦氏らの行動力に私たちは感嘆した。

私が生きる日本社会は、度々起こる国際的なテロ、自然災害、そして目の前の課題に決断ができない政治に対して、他人を攻撃するかあるいは内に籠るか二者択一しかできないように見える。確かに様々な問題に対して個人が自分の意見を持つ、表明することは大切だ。しかし、三浦氏は単なるイデオロギーではなく、働きそして子育てをする女性たちの生活に根ざした「要求」をとりまとめ、活動を続けて来た。今日風に言えば〈共生〉、あるいは〈地域づくり〉と言える。女性たちが地域において自分たちで築き上げる運動は決して派手ではないが、その堅実で着実な運動の成果を、私を含めた後進の女性が引き継ぐという意識が今まで希薄であったと反省させられた。

また、1950年代という早い時期から北海道の女性運動が世界婦人大会や世界母親大会等と連携したグローバルな活動であったことも改めて認識した。しかし、残念ながら今日、担い手の高齢化が進み、様々な活動の中心であった札幌の女性団体も解散している。

今回三浦氏の話がうかがえたことで、北海道の女性運動の豊かさを知り、この歴史の遺産を受け継ぐ事の重要性を再確認した。それと同時にわたしたちがこれから造る女性運動やフェミニズ

* (なかぞの きりよ) 北海学園大学経済学部教授

** (はやし つねこ) 札幌女性史研究会 元高校教諭

*** (くどう はるか) 北海道大学大学院文学研究科 博士後期課程

ム研究の意義を改めて問われたと思う。(中囿)

II 趣旨説明

2015年はアジア・太平洋戦争の終結から70年という節目の年であった。戦後、民主的・平和の国家の建設が目指され焦土からの復興を遂げた日本が、その後の奇跡的な高度経済成長を経て世界有数の先進国になるまでの歩みについては、多くの人が学校教育や書物、メディア等々を通して折に触れ学んできたことだろう。しかし、戦後の北海道、すなわち今わたしたちが暮らしている地域が今日まで辿ってきた道のり、そしてそこで生きてきた女性たちの戦後の暮らしや歴史については、若い世代に限らずともこれまで見聞きする機会はあまりなかったのではないだろうか。しかし残念ながら、戦前・戦中・戦後の日本の変貌を肌で体験し、自らもその一員として社会を動かしてきた世代から、生の声でその経験を伝え聞く機会は次第に少なくなってきたのが現状である。

また一方で、昨今は経済低迷の中での格差拡大や生活不安、東日本大震災に象徴される天災や人災、世界規模で多発するテロなどの諸課題に直面し、生活改善を求める市民要求や、原発や安全保障などをめぐる市民運動も全国各地で活発化している。そのような中で、日本の戦後体制や平和に関する議論、自分たちの暮らしや権利を守ることに對する関心がこれまで以上に高まりをみせているように思われる。そしてこうした動きの中には、子どもをもつ母親など、様々な世代の女性たちが主体となった運動や活動もみられる。

今回のトークセッションは、「北海道」と「女性」という2つの観点を軸に、戦後70年の日本社会の移り変わりや今日までに築かれてきた平和や権利をめぐる運動の軌跡をその先駆者のお一人から直接伺い、今後の社会を担っていくわたしたちの世代が受け継いでいくべきものは何かを考える機会とすることを目的に企画された。登壇者には、北海道平和婦人会の元会長であり、女性として、一市民として、戦後の北海道で長年にわたり平和と女性・子どもの権利や暮らしを守るための運動に携ってこられた三浦氏を迎えた。三浦氏のご経験を通して、戦後から今日に至るまでにこの地域における人々の暮らしや権利はどのように変化してきたのかを学び、またその時代を生きてきた女性たちの思いや考え方、行動から、参加者一人ひとりが気づきや刺激、考えるヒントを得られればとの期待を込めた企画であった。(工藤)

III トークセッション抄録

1 三浦章子氏の紹介

聞き手(林恒子、以後H)：皆様こんばんは。

今、紹介頂きました北海道ジェンダー研究会及び、札幌女性史研究会の会員である、林と申します。それから10年ばかり前に『新札幌市史』の戦後編、第5巻って言うんですけども、そ

の中に戦後の女性団体、女性運動、女性政策、そういうふうな項目で執筆した事があるんですが、実は、この『新札幌市史』の戦後の女性運動史を書くにあたって、15年前になりますけれども、三浦さんをインタビューしまして、大変色々な事を教わった。で、その後、随分色々な形でお世話になった。また、札幌女性史研究会でも2001年に札幌市の女性センター20周年記念のセンター祭にお招きしまして、「婦人会館設立の頃」という題で学習会も開いた事があります。そういうふうな事で、戦後の北海道の女性運動を語るというのは、この方を置いては無いというふうに思った訳です。それで、初めに三浦さんの経歴というような形で、ちょっとご紹介致しますと、今お配りしました〈資料1〉という所に書いてありますけれども、三浦章子さん、章子と書いてフミコと読みますけれど、アキコと読まれても、ハイと返事をなさる、中々おらかな心を持ったお婆ちゃんであります。

〈資料1〉

*三浦章子氏略歴

1927年東京生まれ。1948年結婚、翌年札幌に転勤後独立し、現株式会社サンコー経営。二子を育てながら社会活動を牽引。

〈著作〉

三浦章子 「平和・婦人運動の原点——東京大空襲と八月十五日」『女性史研究ほっかいどう第3号』2008

札幌市女性団体連絡協議会 『60年のあゆみ 創立60周年記念誌』2015

〈おうかがいしたい事〉

- ・生活を守る、経済への関心——保育所作り、入浴料金の婦人洗髪料廃止、消費物価の監視、物価値上げ反対
- ・平和を守る——世界婦人大会、母親大会、基地と戦争に反対、国連などに代表を派遣、平和行動
- ・活動の拠点作りと民主的運営——婦人団体の募金活動から札幌婦人会館1962
公費で建設：札幌市婦人文化センター1981→男女共同参画センター（Lプラザ）2003
北海道婦人文化会館1974→北海道女性プラザ1991

1927年、東京生まれという事で、今年米寿です。1948年に職場結婚されて、翌年札幌支店に転勤。1年後東京本社が倒産したので、独立して営業を始められた。サンコーという会社を経営されて今も取締役。こういう素敵な名刺ですが、初めは青写真で、今はそれからさらにコンピューターで情報処理の仕事に色々発展されております。という事で、サンコーの経営にあたり、2人の子どもさんを育てて社会活動もやって来られたと。

東京府立第五高等女学校を卒業してから、5月に東京大空襲、山の手空襲を経験して中野区のお家が全部焼かれたなどの経験は、私どもの作った『女性史研究ほっかいどう 第3号』に

執筆して頂いた事があります。それから実は2つの顔を、今日は紹介する事になりますけれど、『北海道平和婦人会 60年の歩み』というのが、昨年の秋に出版されました。つい最近に、札幌女性団体連絡協議会、これも60年の歩みを閉じた訳ですが、こういう立派な年史も作られました。

そういうふうな事で、社会活動というものとしては3つの柱を持たれていたと。1つが生活と経済を守っていくと、2つ目に平和を守ると、それから3つ目に活動の拠点作り、そして民主的な運営。〈資料1〉に黒ポッチを書いておきましてけれども、こういうテーマでお話を一問一答でしていきたいという事なんです。

私も札幌にずっと長く住んで居て、非常に札幌が変わっちゃったんだよな、と思うのを、この下(〈資料2~4〉)に札幌市の人口、それから姉妹都市、そして北海道知事、札幌市長、こういうものの一覧を書いておきましたので、それをちらちらと眺めて下さい。

〈資料2〉

戦後初期の札幌の女性運動

- 1945 友の会、白雪会(『婦人公論』読者会)、矯風会の活動再開、翌年働く婦人の会、婦人有権者同盟結成
- 1946 初の女性参政権行使、北海道一区から新妻イト・柄沢とし子当選
- 1947 初の統一地方選挙、札幌市議員に安倍登貴、竹村マヤ、許士ヨ子当選
日本国憲法施行、教育基本法と6・3・3・4の新学制施行、公区廃止→地域婦人会結成
曙婦人会、西創成婦人会、苗穂婦人会など
- 1949 婦人民主クラブ札幌支部結成
- 1950 第2回婦人週間北海道大会に労働省婦人少年局長山川菊栄参加、札幌他で講演、懇談、視察
水島ヒサ、全国最多得票で北海道教育委員に当選
- 1952 第3回北海道婦人大会を札幌で開催
矯風会小笠原貞子、札幌市議会風紀取り締まり条例改正聴聞会に口述→1953成立、1956
売春防止法成立
- 1954 札幌市婦人団体連絡協議会発足(一2015) 輪番議長制(一1974)
- 1956 第1回札幌市婦人大会開催
(「女性の解放と社会進出、女性団体の発展と変貌」『新札幌市史 通史五(上)』「戦後札幌の女性活動」『札幌の歴史 43号』2002、「女性問題の高揚と活動、女性労働の変化と法的対応」『新札幌市史 通史五(下)』「戦後北海道女性政策の概括」『女性史研究ほっかいどう第2号』2005より作成)

〈資料3〉

札幌市の人口と姉妹都市

1950	この年、白石村を合併して約30万人	1959	ポートランド
1955	この年、琴似町・札幌村・篠路村を合併して約40万人	1972	ミュンヘン
1970	(1961年に豊平町、1967年に手稲町を合併)100万人	1980	瀋陽
1984	(1972年に政令指定都市)150万人	1990	ノボシビルスク
2009	190万人突破	2010	大田

〈資料4〉

歴代北海道知事と札幌市長

北海道知事	田中敏文 (1947—59)	町村金五 (1959—71)	堂垣内尚弘 (1971—83)
	横路孝弘 (1983—95)	堀達也 (1995—99)	高橋はるみ (1999—)
札幌市長	高田富与 (1947—59)	原田与作 (1959—71)	板垣武四 (1971—91)
	桂信雄 (1991—2003)	上田文雄 (2003—15)	秋元克広 (2015—)

それから、〈関連年表〉として、4ページにわたる1953年から去年までの年表をここに作ってございましたけれども(巻末資料)、これは左側が北海道平和婦人会、それと関連する女性団体の動向。右側が国内外の動向。平和婦人会の60年の歩みの年表の中から抜き出して、それで特にお話して頂きたいなと思うのはゴシックを掛けてあります。で、2ページ目を見ると1973年に三浦氏は北海道平和婦人会第3代目の会長になられている訳ですが、それから、日本の婦人団体連絡協議会、略称婦団連というものの副会長もずっと兼ねていらしたと。2005年まで、大分長い会長生活を続けていらしたという事です。

2 保育所設立運動

H：東京で戦災にあわれて、北海道にやって来られた。まず、北海道札幌の生活というものとはどんな印象でしたかって、いや、札幌の人はとっても温かかったよ、私は札幌、いや、戦災が無くてよいけれども、寒くて大変だったよってという声がかかるかと思ったんですけど、今度の打ち合わせをして、そういう事を言われたんで、うわって思いました。それでそういう中で仕事をしながら、子供さんを育てている。その中でまず、保育所作りをやった。その1956年に作った「みかほ保育園」って言う、これは何処に作られて、どんな形で運動なされたのか、まず初めによろしく願います。

語り手(三浦章子、以後M)：どうも皆さん、本当にどこかでお会いした方ばかりのような気がしますので、大変自分の観念の中でお話すると思うんですけども、若い方もいらっしゃるの、昔と今とどんな風に違うかという事もね。やっぱりね、戦争に負けて、1945年の8月15日に戦争に負けたんですけど、その後、今までの規律とか全部解かれて皆さん結社の自

由って事で、労働組合がどんどん出来る様に、婦人団体なんかもどんどん活発に動き出したって言うのが事実だと思うんです。

それで、その中で私は、家の両親は福井出身なんですけれども、父親は福井の農家の出身で、次男なもんですから高等小学校出てから東京へ来て、夜学に通いながら運輸省の汽車の切符を作る工場なんかで昼間は働いて、そして夜は勉強して大倉高商から中央大学、全部夜学で出て、そして運輸省に入ったんですね。それから家の母は没落大地主の娘で、やっぱり福井なんですけど、県立高女を出てそれから福井師範に行って、福井師範の2部を卒業して、そして小学校の先生になって半年くらい勤めてる時に、仲人話で、隣村のこういう男がいるよというような話を持って来て、没落地主でお金や何にも無いもんですから、両親は飛びついて、これは良いと、家の娘に丁度良いって言うんで、東京に行けば嫁入り道具も色々見せなくて良いっていう事で、東京に出て来て、その没落地主の文無しの娘と苦学して運輸省に入った息子と、それが一緒になったのが私の両親です。

それでその両親は、高円寺に住んだんですけれども、そこで一番先に持って来た夫の月給が50何円とか、それで高円寺に借りて、それが、父親が花嫁を迎えるのに相応しいと思って借りた家が1カ月25円の家賃の家を借りてたんです。多分うちの父は大変数字に強い人で「財務の生き字引」と言われ、私も父の数字に強い所をちょっくら貰ったんで、私は数字を見てカッと腹を立てたり、国の予算がこんだけになったって言ったらすぐ腹立つし。この間なんて、電気代なんかも公共料金なのに18%もパッと値上がり案を出すなんて、とんでもないって数字を見るとカッとして何か動かないでいられないような気持ちになるの。これ父から貰った数字に関心がある気質と思うんですけど。

で、その母はですね、50円の月給で25円の家賃の家を借りてたってのは、多分大地主の娘だから、無いって言っても幾らか持って来てくれるだろうと言うのがね、全部予想にあったんだと思うんですね。ところが実際、本当に何にも無かったんです。何にも無かったんで、これは大変だって事で半年もしないうちに、福井の自分の出た師範の先生に連絡を取って、私は今、働かなければ食べていけませんので、すぐ東京で学校紹介して下さいって、就職先を紹介して下さいって、宜しく願いますって言いましたら、東京渋谷区の笹塚小学校という所を紹介して貰って、笹塚小学校の先生になったの。で、笹塚小学校の先生をやって、半年位で私が生まれたんですね。それは、1927年、昭和2年です。ですから今88歳の齢を重ねたんですけれども。何かあつと言う間の88歳だなというふうに思います。というのは、いつもいつも何か楽しいというか、お金が無くても、お金が無かったならば、これで何が出来るかというのを考えるのが楽しい。それから、1日10円の食費でどういうふうにしたら、十分な食事となるかって言うんで、これは札幌に来て独立してからの話ですけども、お祭りだと言うので、お刺身の端っこばかり、こう1つ山にして、はいこれ10円とかなんとかっていうふうな時でしたね。狸小路の9丁目当たりの南3条9丁目に住んで居ましたので、狸小路が近かったので、そういうふうに魚屋さんに行って、そういうふうなあれしてきました

けども。私は小学校それから。

H：三浦さんあの東京の話はちょっと。

M：ごめんなさい。

H：あの東京で章子さん生まれて間もない頃に。

M：それで母の教え子がしょっちゅう家に来てまして、その世話で丁度終戦の年の11月に日本橋にある英和商工社って所に就職した訳です。そこに三浦が居た訳ですね。それで、職場結婚いたしました。1年位で職場結婚したと思うんですけど、戦争が終わった時17歳ですから、会社に入ったのが18歳の時に入った。職場結婚をしてそれぞれの仕事をしてたんですけども、会社が非常に、もう戦後ですから、色んな物が盛んにどんどん、産業も盛んになるんで、支店を出そうという事になった。札幌支店、大阪支店、福岡支店、もう全国に5カ所位出した。その札幌支店に私と三浦とが、三浦は支店長、私は財務その他総務、全部受け持つ間に、わずか7、8人位ですけれども、札幌支店に転勤という事になったんです。

転勤になって間もなく、1年もたたないうちに私色んな事やりました、旭川も営業に行きましたし、色々やって札幌でも。さっき林先生がおっしゃったように、来た時の印象って言うのは、本当に何でも受け入れてくれるような温かい人達が周りにいました。というのは、どこに行ってもそうだって言う事で、東京と違うのはここだなと思いました。温かくてよそ者をととも丁寧に受け入れてくれる所で、そしてこれは住みやすい所だなと、一番良いのはやっぱり人間関係の良い所が1番住み易いですよね。家でも、それから社会でもそうだと思うんですけど、それは北海道に来た第一印象ですけれども、1年位で本社が倒産したんですね。

もう、支店をいっぱい出すのに多分銀行から凄くお金を借りて、それを期日に返せなかったから、倒産したんだと思います。お得意さんは沢山あるし、そしてそれぞれの支店が皆独立したんです。私達も札幌で、これだけお客様があって、お得意さんがあって、仕事があるのに、倒産した東京に帰る必要はない。ここで独立しようと私達も思いました。来た時から大好きな北海道、大好きな札幌になった訳です。札幌市の抽選にあたり北25条の市営住宅に入りました。

市営住宅のそばに若草保育園っていうのがあって、そこに3歳位から長女セツ子を入れました。けども札幌全体としてはまことに保育所が足りない時で、足りなくて、保育所にあげたい人が沢山いた訳です。そこで、鉄北地区に保育所がほしいと、まず、有志で市役所に調べに行ったら、市役所の年間計画っていうのは4年に1回保育所を建てるっていう計画があるので、これは運動を起こさなかったら大変だっていう事で、友だちも合わせて30何人で保育園を建てる運動をした訳です。署名を集めたり、発起人を集めたり、結構、それに何ヵ月かかかりましたけども、札幌市に請願を出して、そして結局通って出来る事になったんです。場所は美香保地区だから、建てた保育園は「みかほ保育園」。今もあります。そんな人達が60何年前にね、お母さんの運動で建てたなんて分からないと思うんですよね。出来た時は

なんか色々寄付したりなんかもしました。

その時の市長さんが高田市長さんでした。高田市長さんていうのは、歴代市長の中で格段の優秀な立派な市長さんだったなと思いますけれども。その市長さんに子供が花束を持って長靴、その入りたい子供がね、運動して入りたい子供は来年1年生になるような子供なんです。その子供達4、5人連れて、親も4、5人で市長さんの所にお礼に行った訳です。花束を持ってですね。市長さんどうもありがとう。まず、市長室に入ったら、絨毯が敷いてある訳ですね、その絨毯の所を長靴、「いやいや長靴脱がなくて良いの。そのまま入って頂戴」って言って、市長さんが、「皆さんのお母さんは本当に偉いお母さん達だね」って言ってくれたんですよね。こういう事を言う市長さんは本当に嬉しいなって思いました。

その他の時にもお会いしてる事もあるんですね、市政懇談会ってというのが地域にある時に行きましたけども、本当に色んな質問なんかに対して、相手の心の中まで見抜くような鋭い眼、必要に、その時に応じては、それが温かい目になるけれども、ちょっとただ者ではないって言う面構えの市長さんでした。その市長さんが、あんた達のお母さんは偉いねって言って褒めてくれたのが今でも印象に残っています。

3 鉄北平和婦人会設立と小笠原貞子氏の世界婦人大会参加

そのグループがこれで終わりという事にしないで、これを会にしましょうというふうにして出来たのが鉄北平和婦人会。まだ区なんてない時ですからね、今東区ですけどね、鉄道から北にいる人達が皆で、私は幌北に北24条に居た。市営住宅に居たんですから、そういう人達が皆集まってやったので、鉄北平和婦人会、それが平和婦人会が出来るほんのちょっと前(ママ)です。今度は北海道平和婦人会が何故出来たかっていう事ですけども、それは今、林先生がお伝えした札幌市婦人団体連絡協議会ってというのが出来る時だったんです。それと同じ頃に北海道平和婦人会も出来る準備をして、皆がもうどんどんと準備をしてる段階だったんですよ、その会を。だから、そういうのがほとんど同じ頃に丁度61年前の11月がスタートなんです、どっちも。

それで、小笠原貞子さんはキリスト教矯風会のお母さんの跡を継いで、代表でそこに出てきた訳です。私は、鉄北平和婦人会のあれとして入った訳ですね。出てって、間もなく北海道平和婦人会の中、北海道平和婦人会が出来る前ですけども、小笠原貞子さんを世界婦人大会に送ろうという時には、それが全部役に立ったんですね。小笠原貞子さんっていう方は、肩書はその時、キリスト教婦人矯風会の代表ですから、売春問題にとっても一生懸命、矯風会ってのは、そういうのに一番力を入れておりました。売春ってというのは買う方ですね、ああいうのが居るからこういうふうになるんだっていう事で、矯風会はそういう運動をしてきましたから、小笠原さんを世界大会に代表に送るっていったら、あらゆる所、あらゆる団体が皆賛成してくれる訳ですね。そして、その時は1円5円10円というお金を集めるのが目的でしたけれども、農協の婦人部から、漁協の婦人部から、そういう所の人達まで。ですから、

津々浦々まで行き届いて、たくさんカンパが集まりまして。そして小笠原貞子さんは世界婦人大会、これは戦後初めて開く世界婦人大会ですね。本部は。

H：パリですね。国際民婦連の。

M：国際民婦連は事務所はパリにあったんですけども、パリのイレーヌ・キュリーとかコトトン夫人だとか、ああいう科学者だとかね、皆それを作るために一生懸命、ヨーロッパも大変な戦争の被害に遭って大変な時でしたから、まず、第1回の世界婦人大会は開かれた訳です。

ところが、小笠原さんを送り出すのに、お金はたくさん集まりましたけれども、なかなか外務省が旅券を下してくれなくて、やっと座り込みやなんかやって、高田なお子先生を団長にして。10人ばかりの代表が小笠原さんを含めてですね、出かけて着いた時にはその世界大会が終わる前の日位だったんですね。だから、大事な大会には全部参加出来なかったんですけども、その後、中国とかソ連とかを視察して帰ってきたんです。その結果、眼の覚めるような思いをして、中国もソ連もですね、やっぱり戦争が終わったばかりの時に出来たんですからね、本当に燃えてたと思うんですよね。今の運動がねああいうふうに燃えないのはってね、それはね無理もないですよ、あの戦争を終わらせて、皆が色々な活動が出来るようになったって事は、これはもう、食べる物も無い、着る物は貧しい、そういう中でも一番心の自由があるっていうのは、本当に人間が燃える元だと思うんです。それで、世界中、もちろん日本もそういうふうになった訳です。ですから、中国とかソ連も、今のロシア今の中国を見たら、うーん途中でとんでもない事やった事がとか、色々な事思い出しますが、出来立ての時は素晴らしかった訳ですよ。そういう所を見て来て、いやー、若い国って言うけどこんなに良い事してる。保育所はあるし子ども達の教育にも行き届いてるし、何かそれに教育費はタダだって言うし、あらゆる事全てが、それから、働く人達も生き生きとしてるし、こんなに良いのが赤だったら、赤って良いんでしょっていうような印象を受けて帰ってきたんですね。

そしてこちらでは、全道労協って、今もうありませんけど、総評関係の全道労協、今はありませんけど全道労協も出来立てですから、これは小笠原さんはとても大事にしてくれて、炭鉱だとか何だとかの主婦会作りに、小笠原さんの報告を聞いて、それだから主婦会を作ろうっていうような事を全部小笠原さんを使って言って、それで炭鉱なんかでは平和の女神が来たとかっていうチラシが電信柱に貼ってあって、そして小笠原さんを迎えたっていうんですよ。

だからね、今ね、そんなに、だから輝くって言うのは、そういうのを輝くって言うんですよ。それを私達が使ってた言葉を皆盗んだのが安倍晋三だった。で、私は安倍晋三は平和泥棒、私達が平和、平和って一生懸命やった北海道の平和婦人会できる時に、平和っていう名前を付けようって言ったたら、平和って言ったたら赤って言われるから、もっと別の名前にした方が良かったかって、さんざん議論したんです。分かりますか、その平和がやっと決まった、

北海道平和婦人会の平和って言うのは、今、安倍晋三がやたらと平和、平和のためとか、平和のために戦争を持ち込む、平和のために何とかを作る。まあ、こういう輝く女性にして、輝くなんていうのは私達が、運動してる人達が輝いていたんで、輝く婦人にしようなんて冗談じゃない。平和泥棒、平和詐欺、安倍晋三っていうふうに言いたい所なんですけど、ちょっと論点が。

H：ここで一息入れましょう。たちまち平和婦人会が出来ちまった訳なんですけれども、この中に少し母親大会の方と、一緒になったような部分もありますから、ちょっと整理をしたいと思います。年表の方をご覧ください。

1956年「みかほ保育園」が、美香保中学の近くに作られて、そこの人達が鉄北平和婦人会と言ったと。鉄北は鉄道の北と言う事で、その頃は札幌は市電が一番交通手段としては大きな公共機関であったんですけれども、北は24条までしか通ってなくて、それから外は郊外とっていた訳なんです。旧札幌村ですね。それで鉄道の北は国鉄苗穂工機部だとか、帝国製麻だとか古谷製菓、雪印乳業、そういう工業地帯ですよ。そういうふうな所の特に商店のお母さん達が、子供を預ける保育園を作りたいというような事で作ったという事ですけども、かの高田富與市長は戦前の戦中の方で言ったら良いか、綴方連盟事件の弁護士をやったという方なんです。それでその後に自民党所属の代議士になったんですけれども、反骨精神の旺盛な方ですから、又、民衆に対する親愛感と言うのを強く持たれている訳ですから、凄く親愛感を持って思い出を語られていた訳なんです。それに前後して、世界婦人大会、これは社会主義国とそれから第二次世界大戦にレジスタンスをやった人々とが合わさって作った国際民主婦人連盟、国際民婦連っていうものが呼びかけたもので、婦人大会だとか、女性大会だとか、年表の中に色んなものが出て来るから、どれが中核になっているのかっていうような事が分からない事が多いですけど、これは、国際民婦連の世界婦人大会というので、平和婦人会も何回か誘われて代表を送ったと。

当時は本当に政府関係者もなかなか行けない外国への招待が来て、婦人会から世界婦人大会に行くっていうのは、これはもう大変な事だった訳ですから、本当に教育委員だとか道議会議員、市議会議員、それから婦人少年室の室長さんなんか全部連盟の呼びかけ文が配られて、それで、狸小路の店、1軒1軒回ったり、さっきも言われたような労働者の町々を歩いたりしてカンパを集めて100万というお金を集めて、そこに送り出したけれども、もう会は終わった。

会は終わったけれども、社会主義圏の民衆生活を見て来たっていう事で、色々なエネルギーを貰って帰ってきた、その翌年1954年にアメリカのビキニ水爆実験で、あの第5福竜丸が被災したと。それに対する国民の原水爆禁止運動の署名運動っていうものが、ずっと高まっていて、そういうふうなものが世界母親大会或いは日本母親大会という形で、世界では母親大会1回しか開かれなかったけれども、日本ではずっとそれ以後、50回を超える回数を重ねているという、そこを北海道平和婦人会も支えていったという事でありませう。

それで、この母親大会の事と、それからそれを支えた主婦会、特に炭鉱主婦協議会の事については、その中核になっていた多嶋光子さんの事を北海道から2人派遣された訳ですけども、その事を『女性史研究ほっかいどう 第5号』に多嶋光子さんの伝記のようなものをまとめて、その中に注釈も大分書いておきましたので、皆さんそれで詳しく見て下さい。それで、北海道札幌の婦人運動っていうものが、宗教的な団体或いは地域の婦人会、お互いに親睦と教養と貯蓄を強めようというような事で作られていったものと、それから例えば『婦人公論』っていう、その当時としては非常に教養主義的な雑誌の読者グループだとか、そういうふうな同志的な婦人会というようなものが集まって、それで、市の方にも道の方にも働きかけて、民主的な家庭生活、社会生活がやれるようになっていうような事で、婦人団体連絡協議会っていうものが作られていった訳ですけども、何よりもその拠り所が欲しいというような事から、ダンスパーティーをやったり、色んなバサーをやったりしながら資金を集めて、それを糸口に北海道と札幌からお金を出してもらって、札幌市の札幌婦人会館っていうものが1962年に作られました。

4 物価値上げ反対運動

H：そういう札幌婦人会館の作られていく間に、物価値上げ反対の運動或いはお風呂屋さんへ行っただけの場合の入浴料の婦人洗髪料を取らないようになっていう要求。色んな生活に関する運動っていうものが起った訳なんですけれども、特にその物価問題の反対運動っていうようなもので、印象に深く残っているものは。

M：やっぱり、戦後、経済がどんどん盛んになるとインフレになる訳ですね。物価がどんどん上がっていく、その中で公共料金もどんどん上がっていく。今、一番端的に言ったら石油なんか凄いですけれども、どこの国でも一番大事なのはエネルギーなんです。だから北海道なんかは石炭が黒いダイヤで非常に日本の産業の根幹を支えていたんで、労働組合なんかの幹部、全道労協の役員なんて言うのは炭労出身者が半分位だったような気がするんですね。その炭労も今はもうないですけども。そういう事で物価がどんどん上がっていくのがインフレって言うんですけども、もう公共料金もそれに伴って上がる訳ですね。そしたら、今皆さん、安倍晋三になって上がって、なんかこの間まで100円だったパンが、今150円位になってるんじゃないですか。その位上がってるし、日銀が発表する物価が3%以内なんてもんじゃないと思うんです。生活必需品で、物凄く上がって。そういう時にこそ物価値上げ反対運動っていうのを起こさなきゃいけないなと思うんですけども、これの何倍も凄かったのが、この時期だったんですね。

それで、物価値上げ反対札幌市民会議というものを作って、それは全道労協の中に地区労も入ってましたので、平和婦人会が提唱して地区労が賛成して、大きく市民会議ってものにして、そしてそこで、あらゆる公共料金の値上げに対して反対しました。もう新聞までやりましたよ、新聞も。値上げ分は払いませんというような赤い地に白字で抜いたステッカーで

すね、封筒よりちょっと小さい大きさのステッカー。これがね10万枚売れたんですよ。その印刷したのを各市民会議の所で作った物がね。これを玄関に貼って、値上げ分は払いませんという運動に、これで家は参加してますよっていうのを、そしてその後に、選挙があったんですね。そしたらね、まあ皆さん赤いステッカー貼って、値上げ反対運動やってる所は皆、私達の僕達に票入れてくれる人だなんて思って、物凄い応援団に見えたって言うんですよ。

その位、その頃、札幌市は70~80万だったと思います。今190万人ですよ。平和婦人会が出来た頃はね、30何万です。その位の時ですからね、60万都市でね、10万枚のステッカーが貼られたなんて、これは選挙でわが方が勝つなんて思ったなっていうのは分かりますけどね。その位の値上がり、これこそがインフレなんです。市電、市バスも値上げ反対で、家のサンコーの営業マンがですね市役所に仕事取りに行くと、うちの社長の奥さんは市民会議の会長さんですって言ったら、はあーって言って、右から左に仕事くれたって言うんですよ。あの市電の値上げ反対してもね、水道の値上げ反対してもね、値上げ反対運動には、幹部の方達はともかく守衛さんとか、そういう人に至るまでね、三浦さん今度選挙でなさいよって、出たら応援するからなんて言う位ね、皆さんね物価値上げ反対を応援してくれたんですよ。だから仕事もくれたって事ですね。女房がそういう事やってたら仕事が無くなるなんていう事を誰かが言ってたけど、反対でした。

そういうような中で、その頃7%位上がりましたかね、物価が上がるっていう事は、今給料がそれ以上に上がらなければ、給料が下がるっていう事なんですよ。サラリーマンにとっては、そしたら値上げ反対運動するしかないですよ。それと同時に賃上げ闘争も随分やっただと思いますよ。

それに比べられるようになったのが、ある程度あれだと思いますけども、今どうでしょう。安倍晋三がああいうふうに、3%位上げるっていうのは、あれは金融政策でやってる訳ですから、あれでバブルから抜けるためにやったっていうんですけど。私が、安倍晋三が出るっていう時にちょっと下手な川柳を作りまして、「バブルよりインフレ怖い85歳」とかって言うね、本当にねインフレで物価が上がるっていうのはね、身に染みてこの時感じました。

5 平和運動

M：その市民会議ってのが出来たその後ですね、その後今度いよいよ大事な事は平和運動を継続する事だって。憲法改悪なんて言っても、何回も憲法改悪の時期って在った訳ですよ、その中で私達が平和運動をその都度その都度、例えば矢白別に米軍と一緒に来るって言ったら、それにも反対って言ってたら居座っちゃいましたね。初めはちょっとの期間だけっていう触れ込みで来たけど、ずっと毎年毎年やって来る。今年だけなんていう事では無くてね。だから敵のやる事っていうのは、やっぱりそういうふうには、私達は演習をやる時に道道とか市道とあって道がある訳ですよ。ところが、演習場から演習場に行くのに道道とか市道を横断して、戦車が走る訳です。そういうのは市民を優先しなさい、道民を優先しなさいって事を

申し入れをして、ここは北海道なんで、ここは札幌市なんだからっていう事をやって、恵庭の演習場なんかではちゃんと監視を立ててみる訳ですね。まあ実際問題としてそんな事やってたら戦争にならないですよ。演習にならないというか色んな事、あらゆる平和を妨げるものについてはやってきたって事で、私達は、平和っていうのは、平和運動っていうのは築き上げる、毎日毎日平和の事を考える、どこかでいつも考えてる。でもすぐこれがあるからやんなきゃいけない、今日も矢白別から、後継者がどんどんあそこに入って欲しいなどお手紙がきておりましたけれども、あれも素晴らしい闘いだというふうに思います。

6 ベトナム反戦運動

H：ご苦労様です。先程の世界婦人大会っていうの何回も持たれましたけれども、1981年にチェコのプラハで行われたのに会長として参加されましたよね。ちょっと飛びますけれども、そういう所に行かれた事と、その間に挟まれたベトナム戦争の最中、ベトナムにカンパを送る、病院を作るため資金を送る。それは、日本の平和運動の中で札幌、北海道が非常に活躍をしたっていう、その平和運動にかなり。

M：あのベトナム戦争はね、アメリカのベトナム侵略に反対する世界の婦人の運動として、国際民婦連が呼び掛けて各国の婦人、平和の婦人団体が皆立ち上がった運動です。ですから、世界中の女性達がやったんで、私達日本だけでやったのではないんです。婦団連からすれば、榊田会長を先頭にですね、アメリカのベトナム侵略反対という事で、もう60年位から、ゴ・ディン・ジエム政権が南北統一を妨げるというので、ゴ・ディン・ジエムが要請してアメリカに入って来て貰ったという。アメリカ軍はこれ幸いだ、世界の憲兵面している訳ですから、アメリカが入って来て10年ちょっとの戦争でしたよね。それを辞めさせるために、もうあらゆる、今もベトちゃんドクちゃんみたいな、枯葉剤の被害を、まだ今も残っているんですからね。そういう物をまいたりなんかして、あらゆる兵器を使って。

しかし最後に1975年、アメリカが負けて、ミス・サイゴンというドラマっていうか、映画やら色々ありますよね、あれはアメリカが負けて、最後の飛行機が飛び立つ時に、そのヘリコプターに乗せてくれて、こうやって乗れなかったアメリカ兵が居た訳ですね。それをなんか中心テーマにしたのが、ミス・サイゴンのお芝居ですけども、あれ1975年。世界で、あの覇権猛々しいアメリカを負かしたのはベトナムだけですよ。

あとはもう色んな事言っって、あんたのこの民主主義はおかしいと、あんたのここは独裁が悪いだなんて、何も向うにアメリカに攻めてきた訳でないのに、あんたんとこがけしからんって偉そうに爆撃したり、軍隊を送ったりして、挙句の果てに日本にPKOで、日本の自衛隊を後方支援という名目で連れてつたりする。そういう事をしたアメリカ、そのアメリカが唯一、負けて逃げた。それがベトナム戦争ですね。それが1975年。それに対する世界の募金というのは、日本では榊田ふきさんを先頭に、日本中で婦団連傘下の団体代表は婦人からの、やりました。日本中から1円募金、1円募金というタイトルですけども、お風呂屋さ

んにもお店屋さんにも、どこにでもちょっとした缶を置いて、ベトナム支援の、ベトナムに母と子の病院を作る運動ですって言って、1円募金ですって言って缶を置いておくと、1円入ってたり5円入ってたりして、いつの間にか溜まってる。そういうふうにして日本中で大体1億円集めたんですね。

もちろん世界各国の平和の団体が潤沢に潤いましたし、フランスなんかが集めたお金は母と子の病院の救急車になって、日本が集めた1億円は未熟児を入れるガラス箱の幾つかになったんです。平和婦人会はその後、出来上がった母と子のセンターって言うんですけれども、病院ですね、そこに行って実際に見てきました。ベトナムツアーを組んで見てきましたけども、そういうふうにしたのが、75年までには1億円集まって、どんどんベトナムに送ってた訳です。つまり、そういう事がアメリカの侵略に反対する世界の女性の運動だっていう事ですよね。アメリカの侵略に反対する運動をそういう形でやったっていう事です。

H：成程。素晴らしい闘いだっただと思います。

7 世界婦人大会への参加

M：で、その後ですね、今度、私が行ったのは、1981年のプラハでありました、世界婦人大会なんですけど、この時はまだプラハがチェコスロバキアって言ったんですね。その後、チェコにスロバキアが侵入したり、色んな事件があってチェコとスロバキアと2つの国になったんですけれども。私、81年行った時は、チェコスロバキアのプラハで開かれた大きな世界婦人大会でした。分科会が7つありまして、文化宮殿っていう所を全部使って、世界から3千人の人達が集まって、そして更にチェコスロバキアからもたくさんの方が集まって、10日間にわたってやった大会です。開会式に1日取って、その後は7つの分科会に分かれて色々討議しました。分科会も3日くらい論議して、そしてそれをまとめて、今度は閉会式に決議を出す訳ですね。婦団連から7人行ったと思います。私は、もう亡くなられましたけど、フランス語で喧嘩をするという副会長の婦団連の、櫛田さんが会長で、副会長が。

H：米原さんでは。

M：米原さんね。もうお亡くなりになりましたけど、新進気鋭の米原美智子さんと私は平和と軍縮の分科会に入りました。あと色々、民族独立の分科会だと色々あるけど。ですから、世界中から色の黒い人も黄色い人も白い人も全部集まった世界大会だったんですけれども、平和と軍縮の分科会には7人行った中の米原さんと私がそこに入りまして、通訳には斉藤映子さんって優秀な、婦団連の国際民婦連の常駐者ってパリに常駐する人としてももちろん英語出てるので、そこに常駐してた人で、そこにいる間に国際結婚した人ですけれども、日本から行くといつも日本の人達の通訳をしてくれる訳です。私共は原稿を持って行ったら、いやこれは下手な訳し方だと言って、全部直してくれたり、こっちでしかるべき人の頼んでいるんですけれども、彼女から見たら下手なあれだと言って、全部自分で直して。

その斉藤映子さんが、平和と軍縮の分科会の通訳に付いてくれまして、私は丁度折しもで

すね、広島・長崎に原爆が落ちてから1981年という事で、45年に落ちてるんですからね、36年経つんですね。アメリカは30年経つと国家機密でもなんでもオープンにするんです。それで、広島・長崎の写真なんかもいっぱい出てたんですよ。その前々年位に、それを選んで広島・長崎の原爆写真を原水協が作ったそれが、81年のね、私が行くときに出来上がったばかりの。それ、私達があればする時は、新聞紙2ページ位の大きさのあれですけども、そのミニ版でね、丁度新聞紙1ページ位の大きさの広島・長崎の写真っていうのを60何枚で1セットで、日本中で色々展示したの。で平和婦人会では、その時はもう、札幌平和行動実行委員会っていうのをやる第1年目だったんですよ。その時には、その写真を全部、大通りの木と木の間にひもを渡して、60何枚の写真を下げたの。私はプラハに行く時にそのミニ版を10枚1セット10ドルって、適当な値段を付けてですね、10組持って行ったんですよ。

結構10枚1組で10組って行ったんだけど、もっと持って来ればよかったと思うんですけど、その分科会で発言する時に、今私達は広島・長崎の写真を日本全国にこう掲げて核兵器反対の運動をしております。そして、私達は、核兵器は本当にこの地球上から無くさなければならぬというのを中心にした発言をしました。そして、5～6人の議長団が居るんですけども、その真ん中に宇宙飛行士のテレシコワさんが居て、議長団の1人だったんですね。それはちょっと後から話しますけれども、その写真を持って行って、私は発言が終わってから、ご希望の方に10ドルでお分けしますって言ったんです。あつと言う間に、インドの外務大臣だとか、なんかやって、外務大臣、女性なんですよ。もう、それから色んな方が来て、あつという間に10組売れちゃったの。いや、20組持って来れば良かったなと思った位でしたけれども、その時にアフリカからの方達も色々私の所に買いに来て。

私はテレシコワさんが発言した時の拍手の数とそれから私が発言した時の拍手の数と、それを冷静にあれしたら、私の発言の方が拍手は大きかったです。という事は、アフリカ辺りから来る方には、ソ連が旅費から何から全部お渡しして来てくれる訳です。その方達が何て発言するか、「ブレジネフの平和綱領を支持します」っていう事を自分が発言する時の最初にそれを言うの。それは旅費を貰ったお礼の言葉なんですよ。というのは、後から分かったんですけどね、そうなんです。そして、ブレジネフの平和綱領っていうのは、日本の平和、核兵器廃絶の思想と全く対立する訳です。ブレジネフの平和綱領というのは、アメリカの核よりも多い核を持って核を制しようって、こういう方針ですから。それを支持するっていう人が、私の発言に対して拍手する、私達は核兵器は全部無くす事が一番大事な事、他所の国が持つてるよりも、こっちの方が多く持っていれば大丈夫だなんていうあれはとんでもないっていう論説から、真っ向から対立する意見なんですよ。それなのに私の方に拍手が多かったっていうのは、ああブレジネフの綱領を支持するというのは政策を支持するんじゃないくて、旅費をくれてありがとうという代わりに言ったんだなっていうふうに、後から思いましたけれどもね。そういう方達も皆私の方に拍手が多かった訳です。

という事は、テレシコワさんって、81年なんてね、帰って来てそんなに経ってないですか

ら、帰ってきた途端にソ連の婦人委員会の委員長かつ、ソ連の婦人会の全部の会長ですからね。それが議長になってる訳ですからね。そうしたらね、もう決議できない訳ですよ、分科会決議が。それで今度は閉会式の時に揉めたんですね。これも元年からいた立松さんが書いたんです。全体会の時に登壇してですね、この決議は間違っている。こういう決議では無かったはずだって、とか、半分まで言ったらバツて切れたんですねマイクが。そういう仕掛けになってるんです。良い発言があると切っちゃうんですから。5千人が集まってる大会議のマイクを切っちゃう。そういう事までして、結局次の時から大会では決議しないという事になりましたね、あれから。

そういうふうな状況の中で、もう世界の裏側なんかも色々見えて来る訳です。私は53歳位まで、和服でずっと暮らしていたので、プラハに行く時も和服で行ったんですけども、和服が珍しいのと発言が皆さんをリードしたという事もあって、色んなオランダのテレビだの、どことかのラジオだなんとかってのが取材に、休み時間全然、ご飯食べる暇もない位忙しく取材を受けまして、それも随分色んな所に載ったんだろうと。

8 今日の平和運動について

M：だから世界婦人大会というのは、本当にしっかりやれば、素晴らしく世界の人達が団結する、平和っていうのは1つの国なんかでは守れないですからね。世界中、もちろんアメリカにも平和婦人会みたいなのがあります、幾つもあります。私が思うのに、アメリカのあれからどんなにベトナムでたくさん亡くなったか、その後今度はアフガニスタンだ、イラクだとかイランだとか、あらゆる所に手を伸ばして、向こうが攻めてきたんでもなし、えらそうに出兵してたのも、遂に2008年のリーマンショックでアメリカの資本主義もここまで落ちたかっていうふうに、私は快哉を叫びましたけれども、あれはアジアの国々は皆バスに乗ってる人まで、拍手したっていうんですよ。アメリカが今までみたいのにさばらなくなる。

つまり、アメリカの一番多い軍事資本はアメリカに戦争をさせて儲けてるんで、亡くなるのはアメリカの若い青年達なんです。それで、怪我をした女性兵士を英雄に祭り上げようとしたら、その怪我をした時にイラクの病院に入ったら、イラクのお婆ちゃん位の看護師さんが子守唄を歌ってくれて、とても嬉しかったから私をアメリカで英雄だなんていうふうにするのはまっぴらご免だって言って、やりかけた所を全部べしゃんと鼻っ柱をそがれましたけれども。それから、イラクやなんかで息子を殺されたお母さんが、殺されてから目が覚めて、ホワイトハウスに乗り込んで行って、戦争反対のあれを随分やりましたけど、あのお母さんが生きてるうちに、まだ息子を兵隊にとられる前にやれば、なお良かったのになって思いましたけれども、やっぱり、息子の命取られてから本当にそういう事を思うのだなというふうに思いました。

今、安倍晋三のおかげで自衛隊を辞めるという人も居るとか。それでももうずっと、とっくに辞めた人に、この間働く婦人の集会で聞きました。レンジャーはまず遺書を書くというよ

うな、というのは、もう死ぬほどの色んな訓練をして、サバイバル作戦なんてのは、生きた蛇だとか生きてるカエルを何も無い所に入って行って捕まえて、それを食べて生き延びるのも訓練の1つだっているんですね。生きた蛇の皮をむいて、食べてる所を写真に出して見せてくれましたけれども。

その方が何故自衛隊を辞めたかって言ったら、自衛隊なんて辞められないって言ったんです。まして、レンジャー部隊なんて言うのは、行進なんかする時は一番偉い人達の次にレンジャー部隊が続いて、後普通の自衛隊の人が続く。で、彼は裁判を起こしたらしいんですけど、PKOに行かないと、PKOに行けと言われてたら行きませんと、私は行けというのなら自衛隊を辞めますと。辞めるについては入る時の契約書に辞めたらどうかって言うそういうのではありません、それから、海外に行くなんて言うのも契約書に入っておりませんと。弁護士をちゃんと頼んで、裁判を起こして辞めたんだ、というのが、彼が辞め方だって言うんですけど、歩ける者は絶対辞められないんだって、そういう仕組みになっているという事を言っておりました。

それを考えると、本当に軍隊に誘うっていうのは、アメリカなんかは日本の医療制度程の良い制度は無いていうんですよね。世界中が羨ましがる医療制度だっているから、どんなに困っても医療制度は良くする事はあっても、新しい薬が出来て来て、これは保険がきかないんですよ、なんて言うのも保険がきくようにするとか、眼内レンズなんかも、私こっちは白内障でやりましたけどね、前は20万位だったんですね。それが眼内レンズを保険適用にしないって言う運動をして、私がやった8年前はもう無料になってましたね。保険適用で。だから、あんまりかからない、入院費位しかかかんなかったですけれども。

(アメリカでは)そういう保険の充実していない陸軍病院とか軍隊の病院に、息子が入ると家族全部が病院にかかれるっていうんですよ。そのために息子を軍隊に入れる人もいるし、大学に行くお金を貯めたくて入ったって言うのも居るし。さっき言った女性兵士なんていうのは、大学に行く費用を貯めようと思って軍隊に入ったら、あっという間に海外の戦争に連れていかれたらしいですけれどもね。そういうような実感というのは、行ってからこういう騒動になると思いますね。

色んな仕掛けが日本なんかでもあると思うんですね。だから、今闘いをしているものは、本当に大事な闘いが幾つも幾つもあると思うんですけれども、なんせ、戦争をやる気で平和って言う位だからね。上手ですよ。騙し方が。騙し方が上手で昔の様に何で燃えないんだろうっていうのはね、敵の騙し方が上手なんです。選挙の時に鉢巻きなんかしてるのね、革新系ばかりだったのが、今は革新系はちゃんと紳士らしい格好して、そして、保守系は必勝とか書いた鉢巻き絞めて選挙やるような時代が変わっちゃったんですよね。それだけに、必死なんでしょうけれども、実際に闘う方も、今は凄い私は希望を持っています。若い人達がたくさん立ち上がりましたから。

9 2005 年世界女性行進 in ソウル

H：最後にと言ったらなんですけども、国際婦人年、そういうふうな事で国連の婦人の権利について、この数年色々な会議も持たれるし、その影響を受けながら、日本の労働法制っていうのも雇用機会均等法から始まって、育児休業法や或いは介護休業法、或いは男女共同参画社会基本法まで色々なものが作られていくようになった。そういうふうなものに対して、色々な形での参加もあった訳ですけども、今世紀に入ってから世界女性行進と言うのにも参加をされて、特に 2005 年に世界女性行進 in ソウルという行動に参加されたというような事でこの 30 年余りの世界の女性活動という事と三浦さんの関係とございますか、それを最後に。

M：一番新しい外国に言った行動は世界女性行進という事で。

H：世界女性行進という事があまりなじみじゃないと思いますので。

M：それね、4 年毎にという事で、行った時が何年でしたっけ

H：2005 年です。

M：2005 年。

H：はい。

M：ソウルね。

H：はい。

M：今から 10 年前ですね。

H：そうですね。

M：10 年前にソウル行ったら、北海道から近いですけどね、韓国のソウルですから。世界女性行進っていうのはね、一番最初にカナダの平和婦人団体が提唱したと思うんですけど、世界中をリレー行進しようと、リレーのタペストリーみたいなのをね、新婦人なんか良くやりますよね、タペストリーとかって。その国で何 cm 四方のタペストリーをって、それをどんどん繋げていって、次の所へ行って世界中を 1 回りし、素晴らしいタペストリーになるというふうにしようという事でやった訳ですね。ちょうど、ソウルが第何回でしたかね。言い出してから割合近いあれだったと思うんですけどね、4 年毎にやってる 2 回目位だったと思うんですけど。

今度はオーストリアから韓国に繋いで韓国から又どっか行くっていう事だったんですけど、私達は韓国のソウルに皆集まりました。日本婦団連関係の団体、例えば弁護士会、女性の弁護士さんの 40 人位は参加したんですね。それから私達の平和婦人会からとか色々な所から全部で 300 人位平和行進に参加したと思います。平和婦人会は、ソウルっていうのは、札幌から 2 時間ちょっとで行くもんですから、一度東京に行ってから行くんでなくて、私達は私達でソウルに行って、ソウルで皆さんと一緒にになりますからって 9 人で行ったんです。その中には、今はもう 1 人で動けない猫塚さん 95 歳この方も、それから一昨年 86 歳でなくなった河野さん、それと私と、私も 10 年前は 78 歳ですね。その位で 4 人位で行ったんですけども、本当にソウルの真真中で平和行進をし、それから集会を開いて、それから向うの労働

組合と交流して、それで、素晴らしい成果がありました。

その時に従軍慰安婦の方達が水曜行動っていうのを起こしているんですよ。その水曜行動も参加しようという事で、私達は連れてって貰った訳です。日本大使館があって道路があって、こっちに歩道がある、この歩道に。従軍慰安婦が何万人も居たっていうんですよ。その中で私は従軍慰安婦であったなんて、本当に謝罪を要求しますってふうに立ち上がった何十人だと思います。本当にわずかな人達、私達が行った時は8人位の方が歩道で椅子に座って、大体80前後位になってる訳ですね。だからね、お婆ちゃんですよ。お婆ちゃんだけれども、この人達が何万人の中から声を出したという。

つまり、従軍慰安婦だったら、大体戦争終わったらポンと投げ出されたらしいんです。そうしたら川を渡り山を越えて自分の家に帰ろうと思ったけれども、家に帰ったら家族が良い顔する訳はないので、という事は親に騙されて連れて行かれたにしても、親を騙している訳ですね。あんたん所の娘さん、こういう所行って仕事があるから、行かないかっていう誘い方をして自分の娘を出している訳です。だからまず親が騙され、でも薄々はそうは分かっているけれども、そういう所へ行って働いて。

そういうふうにしておきながら、日本が戦争に負けて、解放されて家に帰ってきたら歓迎するかって言ったら、歓迎しないんです。それが分かるからもう途中で川を渡る時に、川に流されて死んだ人も居るし、色んな事もあるけれども、家には帰れないから、他の所に帰ったっていう人も居るし。まして自分が従軍慰安婦であったなんて事、言えるなんて人は本当の一握りも良いとこ。本当に勇気と志とがきちんとある女性達ばかりだと思います。本当に80前後になったオモニ達の顔はやっぱり素晴らしい、それこそ輝く女性っていうのは、ああいう志高く輝く女性っていうのは、ああいう人かなと思う人たちと握手をして。

それから今度は向うの労働組合の婦人部の人は、周りで歌を歌ってくれるんですよ。その歌の内容は、「今日は雨が降るっていう予想だったけれども、お天気になってお日様が出ている。これはお婆さん達の熱い思いが雲を吹き飛ばして、お日様を出させたんだね」っていうような歌を、即興で歌うんです。そして踊るの。

でね、労働組合のすぐ横で、何かで労働組合が座り込みやっていたんですよ、広場で。それはもちろん男の人も色々混ざってですけどもね。その人達も、何かあれば、即興で歌も作って、歌に合わせて踊りも踊るといのが、あちらの闘い方。これは私達も学びたいなと思ったんですけど。だから、デモ行進するんでも、なんかにぎにぎしく色んな物を掲げてPRするのと、日本みたいに、これは母親大会のデモ行進です。ただ今市民会館で会をやって、こういう事をやってきましたって、宣伝カーだけがしゃべったり音楽流したりして、歩いている人は肅々と歩いている。これが日本のデモだと思んですけども。そうでないんですよ、歌ったり踊ったり、しかもそれを即興でやったりしてるんだっていうのは、あそこに行ったら分かってね、ああこれは学ばなきゃならないなって。

それで、今度は労働組合の方に招待されて、近くの所にお昼を食べに行っただけですよ。

の時に、この際だから色々な事を聞こうと思って、労働組合の婦人部長さんに聞いたんですけども、「南北の民族が一緒になれるのはいつ頃でしょうか」って言ったら、びっくりして、「そんなこと全然考えてない」っていう目をしました。同じ民族が北と南に分かれてる、いつか一緒になりたいと思ってるんじゃないかと思うんですけど、そんなこと全く考えてないっていうような目をして、「うーん」って答えられなかったですね。

だから私達は、自分が何か色々考えてる事と、やっぱり交流してあれした事とは全然違うなと思いました。やっぱり、人間は一人一人ね、皆と会ってお話をして、そういう事しないといけないというふうに思いました。学ぶ事の多かった世界女性行進でした。

10 質疑応答

司会(工藤)：はい、三浦様、それから林会員もなんか駆け足でありがとうございました。少しお時間が押してしまっただんですけども、これから20分程度のお時間がございますので、フロアの皆様から、今のお話を踏まえて、ご意見ご質問ご感想などを頂戴したいと思いますけれども、皆様いかがでしょうか、せっかくの機会ですので、何方か。

質問者①：こんばんは、貴重なお話ありがとうございます。今のお話の中の小笠原さんの事が、早くに亡くなられておりますので、私は三浦さんが色々交流の中で凄く印象的だった事を、1つ2つぜひこの機会にお伺いしておきたいなと思いました。

M：小笠原さんの事についてですか。

①：そうです。

M：小笠原貞子さんとね、まあ本当に私、母親大会の方も事務局長を長い事やりましたので、大会毎にだいたい北海道代表団150人とかまだ飛行機の無い時なんかは列車を連ねて行く訳ですね。そして小笠原さんはもう国会議員ですから、東京で私達が着いた所に、小笠原さんが迎えに出て下さってる訳です。そうして着いた時には、小笠原さんは私達北海道の人達だけでなく、他の日本全国の人達から特別に本当にちょっとでも触りたい、ちょっとでも握手したいっていう人達が何百人と来るんです。ですから、小笠原さんの安全を守るだけでも大変なんです。それがね、東京に着いて良く分かりましたね。

そういう方達に、本当にお話が柔らかいっていうかね、とても大事な事を分かりやすく、柔らかく優しく話して下さるので、素晴らしい方だったなあというふうに思います。でも、私達に、同じ組織にいて、なんか原稿を書いた、この間、小笠原さんにも50年誌に何か書いて欲しいって、行ってお願いました。そしたら、今年のお正月ですかね、亡くなった長く事務局長やってた橋本富美子さんが、小笠原さんの文章をちょっとこう直したって言ったらね、凄く怒るんですってね。怒るのは私に怒るばかりって言ってた。人の原稿をそうやって直すもんじゃないって言うんだ。私なんかは、拙い原稿だからどういうふうに直しても良いよとかって言う。全然違いますね。そういういい加減な所のない方です。はい、だけでも私達が思っている北海道の小笠原さんだと思ってるんだけど、日本の小笠原さんでしたね。

H：北海道の頃の事、聞きたいんじゃないですか。

①：いや、でも。

M：それからね、彼女は何か歌を1つ歌ってとか言ったら、大分の年になるまで讚美歌を歌いましたね。

①：そうですか。

M：やっぱり、矯風会時代が結構あったんだと思います。

司会：ありがとうございます。他に質問どうぞ。ご遠慮なく聞いて頂ければと思いますけれども、いかがでしょうか。はい。

質問者②：あの、関連年表の中に1965年4月に日韓会談阻止緊急婦人集会。これは初めて知ったんですけども、ネットか何か調べれば出て来る事なんでしょうか。もし内容について、そういう所で調べられないようでしたら、ちょっと簡単にご説明頂きたいと思うんですけど。

H：三浦さんこれは。

M：どこですか、65年。

H：65年にそういう会合をやった記憶はありますか。それともこれは婦団連関係の東京でやった事でしょうか。

②：6月に日韓基本条約調印されてますよね、この年に。その前に。

H：日韓会談阻止という事は、北海道平和婦人会で独自にやったのですか。

M：独自に今もやってるのは、8月15日に札幌平和行動って言うのを、81年から平和婦人会が中心でやってきたんです。私は必ず三越前というかPARCO前で、あそこで赤紙配り。こういう召集令状を、今年には本当にたくさん反応がありました。やっぱり安倍さんが戦争する法案を出したもんですから、非常に関心が高くて、皆受け取っていきました。誰かに渡すとか、友達にやるとかなんて言う人もおりましたし、そういう事で平和行動っていうのは、あれだけではなくて、平和電車も走らせてますし。平和電車は三越前からススキノまでずっと貸し切りで、中で広島に行った人のお話を聞くとかみんなで歌を歌うとか、色んな事をする電車で、1時間位走らせました。で、それが。

H：65年のね、日韓会談阻止の行動は、平和婦人会がやられたのか、それとも東京の行動なのか、そこちょっと確かめたいなと。

M：ちょっと分からないです。婦団連なら分かる。

H：ちょっとそれ、婦団連の関係資料を当たってみます。阻止集会という、左側の欄の方を質問されたんでしょ。

②：はい。

H：それで左側の欄の行動が、平和婦人会で独自に札幌でやったのかっていう事をお尋ねでしたら、ちょっと記憶ないのですね。

M：多分これ東京だと思います。

H：この左側の欄は北海道平和婦人会のもの、それに関係した全国の関係婦人団体のものと両方入っているんです。

②：そうかもしれないんですけども、そもそも日韓会談を阻止する運動っていうのが…。

M：ありましたよ。

②：そうなんですか。

M：反対行動はあることはあったけれども。

②：それはどういう理由で。

H：それは、全体として韓国の腐敗して貧弱な軍事政権に肩入れするっていう事は、アジアの平和を乱すものだっていう反対運動があった訳。ただし、この日韓会談というものが日本の朝鮮植民地支配に対する清算であるべきものなのに、そういう事が行われてないという批判は、その当時なかった訳です。だけど、日韓条約を結ぶというのは、この時点ではアジアの戦争体制を促進するものになるからって言うので、反対運動はありました。そんなものがあったのかっていう疑問ですね。

②：はい。

H：それはあったんです。それはありました。

司会：お時間もう少しありますけれども、ぜひご質問いかがでしょうか。

質問者③：北海学園大学で教員をしております中園といいます。三浦先生、林先生、今日は本当に興味深い話をどうもありがとうございました。私もですね、この年表の1959年に書いてある、実は北大保育園に子どもを預けながら勉強を続けた経験もあるんですけども、三浦さんがみかほ保育園を作って、そのグループっていうかお母さん達が、平和婦人会に移っていくっていうプロセスが凄く、やっぱり面白いというか、今の私達には思いつかないような活動の展開のような気がするんですけども。それはやはりビキニ水爆実験ですとか反戦と言ったらちょっと平べったくなっちゃいますけれども、アメリカとかソ連とかそういう大国が東西冷戦の世の中で、やっぱりそういうものではない、平和な世の中をお母さん達も子どもに手渡したいみたいな気持ちっていうのが、その当時は、こう普通のお母さんの中にも強く有ったのかなと思うんですけど、その辺のお話をもうちょっと伺えたらと思うんですが。

H：はいそうですね。じゃ、残り。

M：私達一番大事な事は、皆の願っている事を1人1人のお母さんが、1人1人の女性が願っている事を集めて、そして皆で行動を起こすっていうのが運動だと思うんですね。なんか義理やなんかでね、あの人が行くから私も行くなんていうんでなくて、本当に要求があって、運動があるなっていうふうに思う訳です。

今なんかブラック企業だとか、小さい所でも、この前テレビ見てたら、学習塾に行った人(アルバイトで講師をしている学生)が大学の試験があるから休みたいと、学生さんだから、この期間休みたいって言ったらね、(塾側が)そんなの休むんなら辞めてしまえとかね、そういう事がね。やっぱり最初の契約って凄く大事だと思うんですけども、それが行き渡って

ないと思うんですね。

それに比べてね、女性達なんか、私はああいうの見てると凄いい歯痒くなる訳ですよ。何で契約していなくても、今に聞えばいいじゃないかと思う訳。私は辞めません、それでも試験の休暇は取りますと、これは働く人の立場を大事にするって言ったら当然じゃないですか位の事を言えば良いと思うんですね。あなたは首切るなんて言っても、私は切られないって。その位の事を言えば良いと思いますけどね。それに比べると女性達のあれってというのは、もう物価が上がった日々困る、それから保育所がなかったら本当に困る。で、学童保育所も欲しい、そういう切実な願いはいっぱいいる訳ですよ、共通の思いが。そしたらどう保育園をやりませんかって言ったら、やるやる、少し心がある人は、自分には、今そういう子供は居ないけども、そういう所に入って一緒に運動しますよっていう。

そういう人も含めて、やっぱりぱっと運動する。だからまず、行動ありきじゃないかなと思うんです。私は、考えて考えてそれから立ち上がるんでなく、動きながら動きながら、修正しながら行動して運動にしていくってというのが、やっぱり運動にしては大事だと思います。良く出来る人に皆お任せしてね、後の人は、あんたに任せたからって、選挙一緒になるけど、当選した時はスタートなんですよ。これから、その人がどうするかを監視しなきゃならないのね。皆でやらなかったたら皆が動く気持ちに、私はそういう事は出来る、これなら出来る、又、リーダーになる人は、皆に丁度良い仕事を、これならどう、これならどうってやれば良い。そして、やった結果を報告して、うまくいかなかった時はリーダーが責任とるっていう事が一番良い事じゃないかなというふうに思います。

司会：ありがとうございます。後、もう少しだけお時間がありますので、ぜひこの機会にご質問いかがでしょうか。はい。

質問者④：今日は本当に三浦さん、林さんありがとうございました。貴重なお話を聞いて大変勉強になりました。それでずっと三浦さんの話を聞いていたら、もう88歳ですから、この間に非常に色々な所に行かれたり、色々な発言をされてきたと言う事は十分分かったんですが、例えば年表見てましたらね、世界婦人大会に日本から参加したり、それから日本母親大会というのに行かれたり、それからもちろん世界婦人大会には何回も代表を送ったりとか、ベトナム戦争に関しては、パッと闘ったり、それから国際婦人年に関しても参加したりですね、そういう非常に国際的な、今から言えばグローバルな視点で活動を随分なされていたように思うんです。なんか今よりもとっても活発だったなと思うんですが、このような世界との繋がりと申しましょうか、北海道から参加したり。今はどんなふうになっているのかという事と。

もう1つすいません、今年札幌の婦連協でしたっけが、解散しましたけれども、平和婦人会とかもね、段々高齢化、メンバーも高齢化しているのかなと思うんですが、それからどういうふうにして行ったら良いのか、お考えがありましたらお聞かせ頂きたいんですが。

M：えっとですね、今とても大事なお話なんですけれども、北海道平和婦人会は、洋々として続いております。今会長さんいらしてますけど。で、地域婦人団体の集まりである札幌市婦人団体連絡協議会が、途中で婦人っていうのを女性に変えたんですけども、そこが9月の末日で閉店、クローズしたんですね。これは4月の総会で、そういう機運がずっとあったので、私は総会で発言する前の幹事会の時にですね、もうこの4月で終わりにするしかないんじゃないかっていうのを、もう全部参加団体が50幾つもあった最盛期に比べて、今17団体になっちゃったんですね。その17団体も、うちから8人位が役員で、会長、副会長、常任理事とかかっていうんでやってるんですけど、その平均年齢が81歳でした。私が計算しましたら。これでは続く訳ないですよ。皆さん体力的にも、家族が家の母さん辞めさせて欲しいって言われて辞めた役員もいますし。そしたらもう限界ですね。

それでこの凄い本を出したのも、横に社協(社会福祉協議会)っていうのが同じ建物の中に居りまして、その人達が、私達婦人団体の仕事を見てて、この高齢者がいくら見た目若くたって、80何歳だったらね、はかどる訳がないですよ。うちの方からボランティアで3人ばかりおたくに本を編集するのにお手伝いしますからって、印刷屋さんの入札から、レイアウトから何から、色んな物を1カ月位手伝ってくれたの。それでやっとこれが出来たんですね。もうね、50年誌作った時と大体似たようなメンバーがね、60年誌の編集委員になってるのに、そういう事ですから。そういう事を考えたら、もう限界が来て辞めたんです。なぜ平和婦人会は、今日も会長いますけど、本当に中身が違うと思うんですね。要求に基づいた運動をしているそれぞれの団体が加盟している訳ですね。

それぞれの団体も労働組合があって、職場で労働組合に入っているっていうのは会社に居る間だけですだからね、それを越したらもう婦人部じゃなくなる訳です。そういう婦人部なりなんなりが入っている事と、それから要求で繋がっている、それから世界とも繋がっている。平和っていうのは1国だけでなんかうまく行く訳ないので、世界の婦人と手を繋いで世界の平和を獲得しなければ、戦争は終わらないと。

で、余談ですけども、これから21世紀の後85年在りますけど、この世紀は大きな世界戦争なんて言うのは起きないと思います。だけど小さいのがちょこちょこ起きると思うし、色々と基調としてはね、世界全体がデフレの傾向でずっと、上がり下がりなると思うんですね。そういう中でね、本当に私達が一番頼りにするのが人と人との繋がりだと思うんですね。家族の中でも職場の中でも、1人であるって事は本当に弱いです。やっぱり、家族は小さい子から大きい子まで、お父さんお母さんも皆で話し合いをして、それぞれの役割をちゃんと納得した上で決めて、決めた事をちゃんと皆でやって、これがもっと、労働組合になってもそうですし、それから、地域の運動になってもそうだと思うし。なんか突出して誰かがね、良くやる人が居て、何でもやってしまうっていうのはかえって不味いと思うんです。皆でやる事が大事だと思うんです。お任せっていうのはダメだと思うんです。

司会：もう少しお聞きしたいんですけども、お時間がありますので、この辺で質疑の時間を

終わらせて頂きたいと思います。本当に平和を守ろうという意識ですとか、何かを行動するという意欲が本日のお話からも凄く感じられたかなと思ひまして、本当に私達の世代も目が覚めてからでも、何かあった後で目が覚めるのでは遅いなという事を気付き、受け継ぎたい事だなと私自身は思ひました。それでは最後に、本当にお一言ずつ、三浦さんと林先生の方から頂きたいと思ひます。一言ずつ三浦さんから。

M：私、今までの人生で1番嬉しかったのはですね、道庁別館の中に北海道平和婦人会と母親連絡会とが入ったんです。それこそ、15年位経つんですね。その間、それぞれの団体が家賃は月1万円ちょっとです。毎年3月になると道庁からお役所の方が来まして、家賃交渉というのがある訳ですね。これは知事と契約を取り交わした時の文書には書いてありませんけれども、口約束ではありますけれども、家賃は3年ごとに見直すという事だから、そういう事については、で、見直すというのは、値上げもあれば値下げも在るっていうふうに、私は思ふ訳です。世間が上がってないし、私達も皆ボランティアでやってるし、あの書記さんにも普通の半分位しか出してないと、だから、オールボランティア団体ですね。そしてしかも、北海道のパイオニア的な運動をしてきた会なので、こういう会にタダなんていうのは、タダより高いものは無いというんで、タダでなくても良いから安く事務所を提供して貰うっていう事は、本当にまっとうな事だと思う、という立場で交渉した結果獲得した事で、その交渉にどの位かかったかというのと、2年位かかりましたね。10何回も交渉やった訳です。こちら平和婦人会・母親連絡会からそれぞれ会長、事務局長、係事務とか、そういう5人位行って、道庁の方も課長に係長に3人位で、毎年3月に交渉するんですけども、未だにこの15年間上がって無い訳です。

そういう事も私の88年の生涯の中で、一番嬉しかったのはって言ったら、やっぱり事務所が道庁別館の中に入ったっていう事ですね。これはやっぱり、それこそ運動をバックにして、戦争が終わったすぐから初めて、色々な運動をし、女性の問題、生活の問題、あらゆる問題について平和を中心に据えて運動をやってきた、誰が何ととっても私達は頑張ってきたんだよっていう。これは無私の、無私って私個人がなんか偉くなろうとか議員になってやろうとか、なんかそんなような事では無い。

私なんかも、議員にならないかって何回も言われましたけれども、それは夜寝る時間を確保して、朝もちゃんと早く起きるためには議員なんかやってられませんか。私はちゃんと睡眠時間をきちんと取るあれですからって、そういうふうと言って。健康でなかったら仕事出来ませんからね。健康を守るためにはやっぱりきちんと休む・寝る、それをちゃんと確保しないとダメなんで、夜も寝ずに頑張ったなんていう事は今までしてありません。そういう事をするとなりの動けなくなっちゃう。という事でお答えにも何にもならないんですけど、今までで一番の褒め言葉でね、早乙女勝元さんって人がね、母親大会かなんかの時、平和婦人会の講師にいらして、事務所獲得のあれを言って、いや、北海道の女性っていうのは、本当に素敵で、知的で、大胆不敵だねって言ったんです。それはね、私はとっても嬉しい言葉に

受け取りました。

司会：ありがとうございます。林先生の方もお言葉をお願いいたします。

H：私は統一戦線という言葉が好きなものですから、例えば、母親大会を生み出すのに、母と女教師の会というものが大変奮闘しましたけれども、ある時点から母と女教師の会と母親大会が別々に持たれるようになった。働く婦人の全道集会とおっしゃいましたが、働く婦人の北海道集会っていうものもありますし、国際婦人デーっていうものが2つも3つも開催されるんですね、札幌ではね。本当になわん、と思う事がいっぱいあります。そういう中で、一昨年2013年、大阪の橋下市長っていうのが、けしからん発言をした時にすぐ平和婦人会と矯風会とそれから女のスペース・おんを中心に、中心にしたっていうのはおかしいけど、その流れを組む、慰安婦問題を解決する北海道の会というものの3者が共同記者会見をやった。あの時は非常にうれしかったです。というような事を感じながら年表作りだとか、やってきた訳なんですけれども。

もう1つ、若い人達に私は、戦後札幌の女性運動っていうものは強かったなと。強かった、しかし、これがやっぱり高度成長期という中で、北海道は炭鉱閉山、それから稲作の減反、それから200カイリ問題というので、もう本当に悲惨な状況になっていて、それで閉山した炭鉱からどつと札幌に流れ込んだんで、大きな地下鉄も作ったし、住宅も作るし、もうひたすら建設工事が札幌で行われていた。そういうふうな70年代にそれまでずっと、統一地方選挙第2回から婦人道会議員というものは1人から5人にまで増えたんだけど、75年から12年間1人もいなかった時期もあります。教育委員っていうのも任命制になって初め、1回位は任命されたけれども、20年近く任命されなかった事もあります。だから、北海道っていうのはそういう女性運動、女性政策っていう面で、冬の時代を迎えた事もあった。それが又、90年代辺りから非常に活発になったっていうのは実感的なものでもあります。色々な問題も持っているけれども、でもやっぱり戦後北海道の民衆運動、婦人運動っていうのは、非常に強かったというような事を、やっぱり私は伝えたいなと思いました。今日がその1つの足掛かりになれば嬉しいなと思います。

司会：ありがとうございました。三浦様、林会員、本日は長い時間にわたりましてお話し頂きまして、本当にありがとうございました。皆さまどうぞ、お二方に拍手をお願いいたします。それでは最後に、北海道ジェンダー研究会の広瀬会員より閉会のご挨拶を申し上げます。

広瀬：ジェンダー研の広瀬です。閉会の挨拶の前に、少し今日の御二方のお話を聞きまして、私が感じた事をちょっとだけ述べさせて頂きます。私がまず、はっと思ったのはですね、鉄北平和婦人会、この平和っていうのがどうして付いたんだろうねっていうのは、私達のジェンダー研の中でも疑問になっていたのですが、今日のお話を聞いていたら、平和なんて言ったら赤と言われるっていう意見もあったけれども、議論の末に決まったってね、これは私物凄いな事だと思ってお話を伺っていました。やはり、平和婦人会とか或いは、三浦さんのお話を聞いていると、1人1人意見をとにかく述べあって、闘わせあって、そして合意を

作っていきっていくという、そのプロセスの強みみたいなものを非常に感じさせられまして、結局三浦さんがおっしゃってましたけれども、誰かが、頼りがいがある中心っていうんじゃなくて、皆で要求を出し合って運動を作る。そこが平和っていう所に結集したんだっていうふうに、今日のお話を聞いて、一本の線を貫くものですか、1人1人っていう事と、組織には頼らないって1人1人を大事にする、それから、平和っていう事を考えていく、そしてそのために行動するっていう強さですね。それをつくづくと感じました。

それからもう1つ思ったのはですね、三浦さんが北海道にいらした時に、すごく大好きになったと、何でも受け入れてくれるっていうその風土ですか、よそ者を排除しないっていう、確かにこれは、北海道独特のものだと私も思います。例えば、私、引揚者の方にインタビューしたりしてるんですけども、北海道が一番落ち着いたっていう方が居るんですよ。色々転々とした挙句北海道に来て、結局ずっとそこで過ごしていると。その方が言っていたのは、その方、朝鮮から引き揚げた方なんですけど、大陸と似た風土があるって、北海道には大らかさがあるっておっしゃっていて、そういう風土の中で、ある意味よそ者だった三浦さんがご活躍できたっていうのも、北海道の持っている独特なものがあるのかなって思いました。北海道女性は本当に今日の話を知ると、たくましく戦って来たんだっていうのが良く分かって、私達次の世代はちゃんとやらなきゃいけないっていう、背中を押されているような気持ちでいっぱいでした。どうもありがとうございました。

司会：皆さん今日はお忙しい所、そして暗い夜道の中をお集まり頂きまして、本当にありがとうございました。ジェンダー研究会では、色んな事をやっておりますけれども、このプラザ祭の企画というのも1つの試みとして位置付けております。まだはっきりはしませんけれども、きっと来年のアイデアもこれから出て来るだろうと思っておりますし、共催して下さった女性史研究会の方々とも交流をしながらいろんな企画を考えていけたらというふうに、私は思っておりますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

IV 総括

近年、戦後改革や戦後初期の民主的諸活動、生活記録運動などの研究が活発である。戦後70年、かつ安保法制改定強行と批判の動きの中で、北海道女性の生活と活動の歴史を学ぶ営みももたれたことは、貴重な試みであった。少人数とはいえ、祖母・母・娘の世代がその体験の共有をめざしたことは、北海道の風土や住民性の指摘と共に、それぞれの意識をより深める契機となったことであろう。

資料など準備する過程で、戦後70年の歴史に対する認識の開きの大きさに戸惑うことも多かったが、これは次世代への歴史継承の営みが十分だったか、より年長世代に厳しく問いかけるものであった。

ささやかな試みであったが、今後も様々な媒体で紹介されることによって、北海道女性の活動の歴史が共有され、より広く活動や研究の刺激になることを期待したい。

(林)

関連年表

年	月	北海道平和婦人会・女性団体の動向	月	国内外の動向
1953	3 6 10	日本婦人団体連絡会（婦団連）結成（初代会長：平塚らいてう） 世界婦人大会（コペンハーゲン）に北海道から小笠原貞子が参加 「みかほ保育園」設立、鉄北平和婦人会発足（初代会長：菅野いさ）	5 6	第5次吉田内閣成立 朝鮮休戦協定調印
1954	3 11	国際婦人デーを記念する全道婦人大会開催 北海道平和婦人会結成（初代会長：小笠原貞子）、婦団連に加盟	3 7 9 12	米のビキニ水爆実験 自衛隊発足 台風で連絡船洞爺丸沈没 鳩山一郎内閣成立
1955	4 6 7	婦人参政権獲得10周年記念全道婦人の集い（中央創成小1000人） 第1回日本母親大会（東京）に北海道代表42名を派遣 世界母親大会（スイス・ローザンヌ）に北海道から多嶋光子（道炭婦協）、梅田幸子（日鋼室蘭主婦会代表代理）の2名を派遣	8 10 11	第1回原水爆禁止世界大会（広島） 社会党統一大会 自由民主党結成大会
1956	5	第1回全道母と女教師の集い（札幌、1700人）	5 6	売春防止法成立 教育委員会任命制に
1957	11	国際民婦連執行局会議で婦団連の正式加盟が決定	2	岸信介内閣成立
1958	4 6	第1回北海道母親大会開催（札幌市中央創成小、2000人） 世界婦人大会（ウィーン）に小笠原貞子参加	6	広島一東京間原爆反対平和行進始まる
1959	2 3 12	北大職員組合婦人部の運動により「北大保育所」誕生（国立大で初） 平和婦人会書記の不当逮捕に反対し「猪股さんを守る会」結成 安保条約反対母と娘の大集会（札幌中央創成小）に1300名の参加	3	安保体制打破道民会議結成 砂川事件無罪判決
1960	3 6	婦団連訪中代表派遣運動に浦谷みえ副会長派遣 国際婦人デー50周年記念全道婦人集会（札幌中央創成小800名） 安保条約紛争北海道婦人集会	1 6 7 9	新安保条約調印 安保阻止ゼネスト・デモ・学生国会突入 池田勇人内閣成立 新経済政策発表
1961	1 6 12	アジア・アフリカ婦人会議（カイロ）、団長田中寿美子、団員に柄沢とし子も 物価値上げ反対札幌市民会議結成（会長：三浦章子） 高校全入・教育予算要求集会	6 9	農業基本法成立 全国いっせい学力テスト
1962	1 3 4 10	道平和婦人会2代目会長に桂川こう 国際婦人デー北海道集会 日本婦人会議発足（1963道本部長水島ヒサ） 新日本婦人の会結成（道本部長市原富美）	10 12	キューバ危機 恵庭事件 この年、道内では18の炭鉱が閉山
1963	3	第1回はたらく婦人の母と子の全道集会	8	米・英・ソ部分核停条約正式調印
1964	11	農村婦人とともに冷害に苦しむ十勝地方に入り調査・救援活動	8 10 11	米、北ベトナム攻撃 東京オリンピック 佐藤栄作内閣成立
1965	4 5	米のベトナム侵略戦争反対・日韓会談阻止緊急婦人集会 ベトナム侵略戦争即時中止を訴える請願署名とカンパ行動	6	日韓基本条約調印
1966	5	第1回北海道はたらく婦人の交流集会	2 8	中国文化大革命 ベトナム反戦スト
1967	10	「ベトナム侵略戦争反対、生活と権利を守る10・21、10・26スト支援」全道母親集会	3 11	恵庭裁判無罪判決 国連「婦人に対する差別撤廃宣言」
1968	12	婦団連、ソ連のチェコ侵入に抗議声明	5 8	防衛庁、ナイキ基地に千歳市と長沼町内定 「開道百年」記念行事

年	月	北海道平和婦人会・女性団体の動向	月	国内外の動向
1969	8	「大学臨時措置法」に反対するたたかい	10	全米でベトナム反戦デモ
1970	6 11	安保をなくし、沖縄をとりもどす全道母親集会 ベトナム母子保健センター設立運動北海道連絡会発足 第1回ベトナム支援バザー開催（道母子センター）	3 6	大阪で万国博覧会 日米安保条約自動延長
1971	3 12	新聞代値上げ反対のたたかい 平和な沖縄をとりもどす全道母親集会	6	沖縄返還協定調印
1972	12	ベトナム婦人交流会代表派遣運動、平和婦人会から中里淑子派遣	2 7 9	札幌オリンピック 田中角栄内閣成立 日中国交回復
1973	1 9	3代目会長に三浦章子 道婦人文化会館内に新事務所獲得	1 8 9	ベトナム和平協定 金大中事件 長沼訴訟福島判決
1974	6	灯油・プロパン値上げ反対のたたかい	12	三木武夫内閣成立
1975	4 11	婦団連「婦人白書」創刊 国際婦人年北海道集会、婦団連国際部長米原美智子の国際婦人年世界大会（ベルリン）参加報告（北海道婦人年実行委員会）	4 6	ベトナム統一 国際婦人年世界会議（メキシコシティ）
1976	4	国連婦人年「世界行動計画」学習会（道婦人年実行委）	12	福田起夫内閣成立
1977	10	北海道婦人行動計画に126項目の要望書提出（道婦人年実行委）	7	有珠山爆発
1978	5 6	第1回国連軍縮特別総会に多嶋光子道母親大会実行委員長を派遣 三浦章子ら3氏による「道政の革新！」のアピール発表	3	「北海道婦人行動計画」発表
1979	8 11	カンボジア母と子支援北海道婦人センター結成アピール発表 国際児童年北海道集会	3 12	スリーマイル島原発事故 国連「女性差別撤廃条約」採決
1980	4 11 12	北海道婦人相談所縮小移転・併置案の撤回と婦人相談所の充実を求める要望書を知事と議会に提出 国連婦人の10年中間年北海道集会（道婦人年実行委） 12・8武器はいらぬ平和を守る母親行動、赤紙・チラシ配布	5 7	韓国光州事件 鈴木善幸内閣成立
1981	3 5 8 10	核廃棄物処分候補地、下川鉱山現地調査交流 共和・泊原発建設予定地調査 第2回全国女性史のつどい、旭川で開催 原爆記念写真展と平和を語る集いを札幌市民会館で開催 世界婦人大会（プラハ）に三浦章子会長を派遣	4 10	原発問題全道会議発足 北炭夕張新鉱ガス突出事故
1982	5 6	札幌市婦人行動計画に103項目の要望書を提出（道婦人年実行委） 第2回国連軍縮総会に橋本富美子事務局長を派遣	11	中曽根康弘内閣成立
1983			1	中曽根首相「日本列島不沈空母」発言
1984	3 6 8	「札幌市女性のための計画」札幌市発表 労基法改悪反対、実効ある男女雇用平等法制定を求めるシンポ 大通地下街オーロラタウンで戦争展を開催	5 10	核・トマホークくるな札幌行動 政管保本人1割負担導入
1985	7 8	「国連婦人の10年」世界会議（ナイロビ） ナイロビ NGO 参加報告会（布施晶子・札幌学院大）	5	男女雇用機会均等法成立
1986	2	「北海道婦人の自立プラン策定のための意見をきく会」に要望提言	4	チェルノブイリ原発事故
1987	3 6	道に、道立婦人会館建設並びに婦人団体事務所に関する要望書提出 モスクワ世界婦人大会に斉藤明子副会長参加	4 11	国鉄解体・民営化 連合結成、総評解散 竹下登内閣成立
1988	2 3	「北の鉄路を守る婦人連絡会」発足（全動労家族会、道母親他） 消費税反対、怒りの3・3ひなまつり行動	12	消費税法案可決

年	月	北海道平和婦人会・女性団体の動向	月	国内外の動向
1989	1	昭和天皇死去に当たり婦団連「声明」を発表	6 8 11	中国天安門事件 海部俊樹内閣成立 国連「子どもの権利条約」採決
1990	4 10	全国労働組合総連合婦人部結成（6道労連婦人部） 女性9団体、即位の礼・大嘗祭について政府へ要請	10	ドイツ東西統一
1991	6 10	小選挙区制に反対する女性連絡会44団体で結成、北海道も7月 91年日本平和大会、北海道で開催	1 11 12	湾岸戦争 宮沢喜一内閣成立 ソ連解体
1992	10 12	カンボジア派兵に反対し、自衛隊官舎への手紙配布 道庁別館2階に新事務所を獲得移転	4 6 9	育児休業法施行 PKO法成立 自衛隊カンボジア派遣
1993	2 9	婦団連、国連差別撤廃委員会（CEDAW）にレポートを送る 「消費税アップ・小選挙区制に反対する女性アピール」	7 8	北海道南西沖地震 細川護熙内閣成立
1994	3 9	新婦人、95世界女性会議・国連会議へのNGO正式メンバーになる 平和婦人会、平和と歴史ツアー 婦団連、「従軍慰安婦に個人補償を」の要請書を首相に送付	1 6	小選挙区制「政治改革」 四法案可決 村山富市内閣成立
1995	8 10 12	第4回世界女性会議（北京）NGOフォーラムへ万年孝子事務局長、 石川一美新婦人道本部副会長を派遣 沖縄の米兵少女暴行事件に抗議する宣伝行動 矢白別への米海兵隊移転反対別海集会（96、97も）	1 3 7	阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件 「女性のためのアジア平和基金」発足
1996	4	「強めよう女性の政治参画——平等・開発・平和の実現へ—— 婦人 参政権行使50周年記念集会」	1	橋本龍太郎内閣成立
1997	4- 5 8	労基法女子保護規制撤廃反対の宣伝・デモ、交流集会 米艦インディペンデンス小樽入港反対抗議集会、要請行動	6 12	労基法女子保護規制廃止 の均等法関連法成立 介護保険法公布
1998	8	新ガイドライン戦争協力法反対全道集会	4	国連人権委『女性に対する暴力撤廃決議』を採択
1999	5	ハーグ世界平和和市民会議へ石川一美新婦人道本部副会長を派遣。	6	男女共同参画社会基本法 成立
2000	3 11	「2000年世界女性行進」北海道連絡会結成、7月北海道のつどい 北海道男女共同参画道民フォーラムでワークショップ開催	6 12	国連女性2000年会議 女性国際戦犯法廷
2001	6 7	2001年女性の憲法年・北海道集会 女性の憲法年連絡会「沖縄米兵女性暴行事件への抗議と基地撤去」 を求める要請書、「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書に関する 声明をアジア諸国大使館へ	4 9 10	DV防止法成立 小泉純一郎内閣成立 米、同時多発テロ 米英両軍アフガニスタン へ報復攻撃、支援三法
2002	7	「らいてうの生涯」上映会		
2003	10	雇用とくらしを守れ、ストップ年金改悪、大増税許すな、イラクへの 自衛隊派兵反対10・1札幌集会、12・21全道集会	3	米英軍がイラク攻撃
2004	11	「9条の会」札幌講演会に4000人	1	イラク派兵違憲の箕輪訴 訟提起
2005	5 7 12	NPT（核不拡散条約）再検討会議に工藤富美子副会長を派遣 「世界女性行進 in ソウル」に三浦会長、万年事務局長ら派遣 4代目会長に石川一美	10	郵政民営化法案採決
2006	4	女性参政権行使60周年学習会	9	第一次安倍晋三内閣成立
2007	5 10	「日本の青空」上映会 STOP新テロ特措法女性リレートーク街宣	1	女性自衛官札幌地裁に人 権裁判（2010勝訴）

年	月	北海道平和婦人会・女性団体の動向	月	国内外の動向
2008			7 12	洞爺湖サミット 日比谷に年越し派遣村
2009	10	長野平和の旅	9	鳩山由紀夫内閣成立
2010	3	2010年NPT再検討会議ニューヨーク行動に代表団派遣	6	菅直人内閣成立
2011	11	とめよう、なくそう、原発11.23道民集会	3 9	東日本大震災、福島原発事故 野田佳彦内閣成立
2012	2 7	男女平等参画条例10周年シンポジウム・道集会 反原発道庁前毎金行動始まる	5 12	泊原発3号機停止 第2次安倍晋三内閣成立
2013	5	橋下大阪市長「慰安婦は必要だった」発言に抗議	12	特定秘密保護法成立
2014	8 10	第50回矢白別平和盆踊り・米海兵隊移転訓練反対全道集会 60周年記念講演、米田佐代子「らいてうの時代から私たちの時代へ」	4	大間原発差止め訴訟

北海道平和婦人会『60年のあゆみ』2014より抄出